

令和 5(2023)年度実施
名桜大学ステークホルダー委員会 評価報告書

名桜大学

2023 年 12 月

名桜大学ステークホルダー委員会

I 名桜大学の概要

1 大学名、キャンパス所在地

名桜大学（設置者：公立大学法人名桜大学）
沖縄県名護市為又 1220-1

2 学部等の構成 ※2023年5月1日現在

【学部】	国際学群	国際学類	在学生数 945名／収容定員 870名 (※国際学群は、令和5年4月1日から募集停止。)
	国際学部	国際文化学科	在学生数 180名／収容定員 730名
		国際観光産業学科	在学生数 171名／収容定員 650名
	人間健康学部	スポーツ健康学科	在学生数 421名／収容定員 390名
		看護学科	在学生数 353名／収容定員 330名
		健康情報学科	在学生数 44名／収容定員 330名
【研究科】	国際文化研究科（修士課程）		
		国際文化システム専攻	在学生数 12名／収容定員 12名
	看護学研究科（博士前期課程）		
		看護学専攻	在学生数 14名／収容定員 12名
	国際文化研究科（博士後期課程）		
		国際地域文化専攻	在学生数 10名／収容定員 6名
	看護学研究科（博士後期課程）		
		看護学専攻	在学生数 5名／収容定員 6名
【専攻科】	助産学専攻科	助産学専攻科	在学生数 6名／収容定員 6名

3 学生数及び教職員数 ※2023年5月1日現在

【学生数】 学群／学部 2,114名、研究科 41名、助産学専攻科 6名
【教職員数】 教員 117名（助手は含まない。）、職員 55名

Ⅱ 評価結果

1 総評

ステークホルダー委員会では、大学が取り組んでいる 1) 地域貢献活動の取組み「学生が主体的に学ぶプロジェクト学習」、2) 教育活動の取組み「学生ピアによる学修支援」について評価を実施した。評価は、2つの取組み状況を示した「点検評価ポートフォリオ」の事前評価及び委員会当日の大学プレゼンテーション並びに意見交換会によって行った。

名桜大学は、「学生の主体的な学び」を支援し、大学の特色ある教育を活かした「地域貢献」に取り組んでおり、大学として相応しい地域貢献活動及び教育活動を行っている。

以下に、2つの取組みについて、それぞれの優れた点、改善を要する点及び進展が望まれる点を列記する。

2 取組み別評価

1) 地域貢献活動の取組み

■ 学生が主体的に学ぶプロジェクト学習について

「学生が主体的に学ぶプロジェクト学習」では、地域社会の課題に対して学生自らが積極的に取り組んでいることが確認でき、地域社会のニーズを踏まえた活動として一定の成果がある。今後、大学がこの取組みの目的を学内外に向けて積極的に情報発信することで、当該プロジェクト学習のさらなる発展を期待する。

【優れた点】

- 学部・学科・学年を超えて集まった学生たち自身が、地域課題を発掘し、地域協力者（自治体、地域住民、高等学校、企業等）と連携してモノづくり（沖縄北部方言を活用したポスター・絵本作成、健康に関する演劇創作）に取り組んでおり、課題解決に向け一定の成果を生み出している。
- 大学（学生・教員）と地域が協働で課題に取り組むことは、お互いの学びの成長に繋がるとともに、学生は地域との連携のあり方についても学ぶことができる取組みである。

【改善を要する点】

- 多くの人がプロジェクト学習を知り参加することで、さらに充実した取組みが行える。そのため、学内外者に対する認知度を上げるための方策が求められる。

【今後の進展が望まれる点】

- プロジェクト実施前後の学生の学習成果や、実際にプロジェクトに参加した地域協力者の反応を可視化し、課題の設定や地域資源の活用方法、または継続性も含め、プロジェクト期間終了後も継続して検証することを期待する。

2) 教育活動の取組み

■ 学生ピアによる学修支援について

「学生ピアによる学修支援」では、学生による学習支援組織（言語学習センター、数理学習センター、ライティングセンター）を設置し、学生の主体的な学びや学習支援の積極的な取組みを行っている。これらのセンターでは、学生によるチューター制を運用しており、チュータリングやセンター運営の補助業務を通じて、学生チューター自身の外国語・数理・ライティングの能力向上とともにコミュニケーション力をはじめとする社会人基礎力の養成も進めている。

【優れた点】

- チューター制度は、学生同士が一緒に学べる空間があることで、チューティー（支援を受ける学生）が安心して課題に取組み、学習意欲の向上と主体性を育む制度となっている。
- 学生に対する学修支援として、各センター利用の満足度も高く有意義な取組みである。連携授業における試験結果やレポートの得点にもその成果が反映されており、学生によるチュータリングの効果は大きなものがある。
- チューター制度は、チューター（支援する学生）自身も相手に伝える・教えるスキルを学ぶ機会となり、主体性やコミュニケーション能力、組織の一員として働くこと、自ら課題を見つけ解決するといった社会人基礎力を身につけることができ、双方での相乗効果が得られる取組みである。

【改善を要する点】

- より多くの学生が各センターの取組みを有効活用することに加え、質・量ともに継続的な発展を進めていくためにも、学内での認知度を上げるための方策が求められる。

【今後の進展が望まれる点】

- 各センターの利用前後の学生の意識、利用の有無による成績への影響、また、チューター（支援する学生）の自己評価等の課題を検証するためのデータを継続的に収集し、本取組みがさらに進展することを期待する。
- 各センターにおけるチューター（支援する学生）、チューティー（支援を受ける学生）のモデルケース（目指す姿）や、**個々の達成度に応じた目標設定**を示すことで、センター利用者の増加、センター利用後の学生の主体的な学びに繋がることを期待する。

□令和5年度名桜大学ステークホルダー委員会の実施内容

- 10月5日（木）～ 名桜大学ステークホルダー委員会委員への就任依頼
20日（金）
- 10月23日（月） 「名桜大学点検ポートフォリオ」に対する評価の依頼
〔名桜大学 → ステークホルダー委員〕
- 10月23日（月）～ 「名桜大学点検ポートフォリオ」の事前評価及び意見の提出
11月3日（金） 〔ステークホルダー委員 → 名桜大学〕
- 11月10日（金） 「名桜大学点検ポートフォリオ」に対する事前評価及び意見等の
集計・報告 〔名桜大学 → ステークホルダー委員〕
- 11月25日（土） 令和5（2023）年度名桜大学ステークホルダー委員会開催
- 11月27日（月）～ 名桜大学ステークホルダー委員会評価報告書の作成
12月13日（水） 〔ステークホルダー委員 → 名桜大学〕
- 12月15日（金） 名桜大学ステークホルダー委員会評価報告書を学長へ提出

□名桜大学ステークホルダー委員会 委員名簿

<委員長>

金城 秀郎 名護市副市長（自治体関係者）

<委員>

宮原 正弘 KPMG コンサルティング株式会社代表取締役社長 兼 CEO（企業関係者）

高江洲 洋子 琉球新報編集局報道本部
暮らし報道グループ副グループ長（報道・調査関係者）

嘉数 順子 名護市 地域経済部地域力推進課 社会教育指導員（地域協力者）

遠越 学 沖縄県立名護高等学校 校長（教育関係者）

赤嶺 妃美紀 名桜大学 国際学群2年次（名桜大学 学生）

島袋 孝志 名桜大学 看護学科保護者（名桜大学 保護者）

名嘉山 兼志 フリーランス（web デザイン・動画制作・書道）（名桜大学 卒業生）

池原 秀人 名桜大学 事務局長（名桜大学 職員）

前川 美紀子 名桜大学 地域連携機構長（名桜大学 教員）

※ ステークホルダー委員会の委員の任期は、2年とする。

□委員会当日の様子

委員会当日は、1) 地域貢献活動の取組み「学生が主体的に学ぶプロジェクト学習」、2) 教育活動の取組み「学生ピアによる学修支援」について、大学プレゼンテーション及び意見交換を実施した。

